

こども病院の周りの田んぼの稲穂が黄金色に色づき始めています。ついこの間まで強い風や雨、嵐に翻弄され、なぎ倒されていた稲も今では立派な稲穂が実り風に揺れて光り輝いています。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」とも言いますがそんな稲穂に生物本来の力強さと謙虚さを感じます。

時期が来れば実を付ける自然の強さ、生きる力の強さがあります。

人間だって同じはずです。

< 第 5 1 回 ほほえみの会 >

残暑厳しい中初参加の方を含め 8 人が参加しました  
と同時に同数の子どもたちも参加し賑やかな会となりました

初参加の方は生後 4 ヶ月の女の子。生まれてすぐに股の血管に血液の固まりが出来て血小板が減ってしまう血管腫という珍しい病気に。注射治療の途中で咳が止まらなくなり今治療を一時中断  
ミルクも飲めない状態で治療予定が延びているとのことです。

また 3 歳の兄が急に泣き出したり、乱暴になって困っているとのことです。  
患者の兄弟が精神的に不安定になる問題は今回も話題となりました。

幼稚園で友達の靴を隠したりする悪さをして困ると先生から言われて辛かった。

本人は注目をして欲しいから故の行動だろう。一緒にお風呂に入っ  
て話をしたりしたが、一人の子が死ぬか生きるかの時に友達とうまく遊べないくらい何とか幼稚園で対処してくれとも思った。

病気の子が治れば兄弟も治るので余り考え込まずにスキンシップを取るように心がけたらどうかとの意見がでました。

こども病院で初めて臍帯血移植をした 6 歳の女の子はこの夏休みに胆のうに石がたまり手術を受けたということです。でも元気いっばいで体重も移植をしたときから 5 キロも増え 2 学期からはまた学校に通っているということです。

病棟の面会時間が 9 月 1 日から正午から夜 8 時までに変更しました。これは親が来れる時間に面会に来て欲しいということと他の病院でも面会時間が長くなっているという時代の流れを受けたものだと思います。

実際には 1 2 時から見える親は少ないようですが参加者からは疑問の声もありました。

子どもにしてみれば当然長い時間親に近くにいて欲しいだろうが、逆に親の来れない子にとってはよけいに寂しい時間が増えるのではないか。

親にとっても遠いところから通う人は家の用事が出来ない。命の保障がない病気と闘う我が子を看病するのにもしものことを考えると悔いの残らないようにしてやりたい。許された時間は少しでも一緒にいてあげたい。

そんな親の気持ちは当然で子どもへの思いと一家の生活に区切りをつけさせてくれたのが面会時間。

長くなると親も大変なのではないか、などです。

面会時間が 1 2 時からになったことで「ほほえみの会」の開始時間も早めた方がいいのではないかと意見があり来月から会を 1 1 時から 1 時の開催としました。

面会のある方は前半だけでもご出席下さい。

次回は 1 0 月 1 0 日 ( 日 ) 1 1 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一